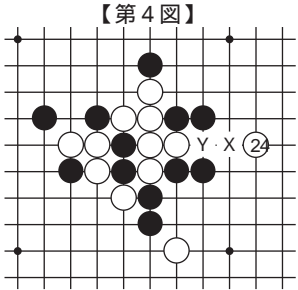


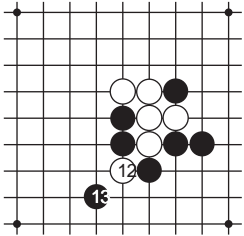
斉藤本入門 (3)

第4図

この24はXとYの2重禁になっていて有名な図である。1カ所の三三禁とちがって、両方を逃れることは難しい。



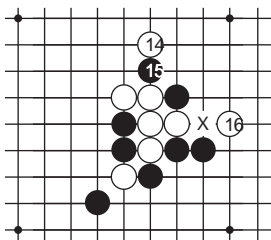
【13をA】



第5図

第3図を検討してみよう。「黒13をAなら白の勝ちになる」という解説である。つまり黒が反対を止めると14と打った手がミセ手で、さらにX点の三三禁をねらうので白の勝ちになる。

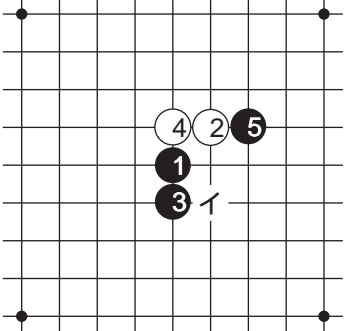
【第5図】

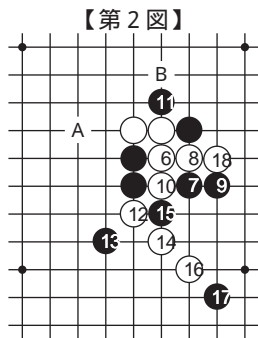


第1図

名月に続いて銀月をとりあげる。練馬連珠会でも、銀月を得意にしている有段者が大勢いるので、ある程度の研究をしておかないと痛い目にあう。斉藤本では5珠としてイもとりにあげている。その図は265図から281図までだが検討は別の機会にしよう。

【第1図】



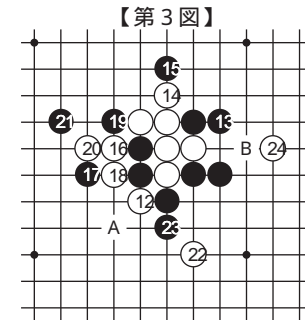


第2図

2 4 1図をとりあげる。解説の文は「黒11, 13, 17を反対は、白勝ちになる。白18をAも追い勝ちになる。白18をBも強防である」と書いてあり、すべて別図になっている。

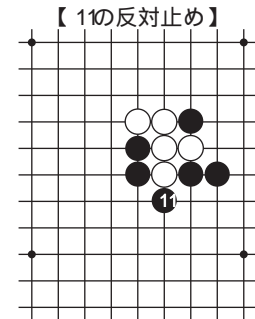
11の反対図は2 4 0図
 13の反対図は2 4 4図
 17の反対図は2 4 5図
 18をAの図は2 4 2図
 18をBの図は2 4 3図
 13と17は「引いた方へ止める」とおぼえておけば反対止めにはならない。

今回は、とりあえず11, 13, 17の反対図を検討する。



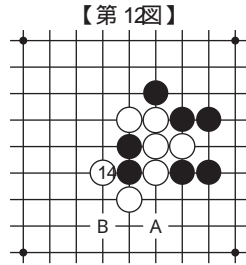
第3図

11の反対止めは「斉藤本」の24図である。解説は「黒13をAなら白15黒14白Bで追い勝ちになる」と書いてある。



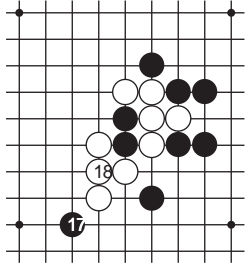
第12図

第9図の「X点が三三禁になる」という部分を検討しよう。14は四三のミセ手になっている。解説では黒がAと止めたら白はBと打って禁手をねらう。



【第12図】

【第13図】

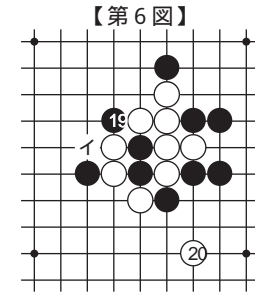


第13図

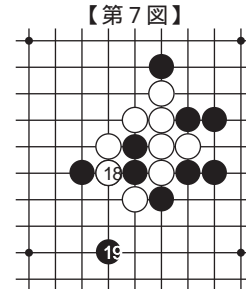
白Bを17と止める。白が18と打つと黒が上下のどちらを止めてもトビ四を打つことによって両側に黒石を置かせることができる。

第6図

第3図の19に20と打ったりするとイがノリ手になってしまう。



【第6図】



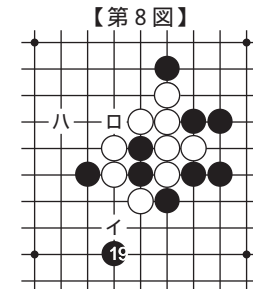
【第7図】

第7図

18が四三のミセ手なのだが、19と三のノリ手で止めたらどうだろうか？

第8図

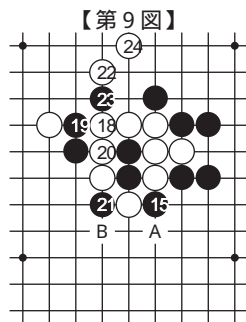
イロハの四追いがのこる。



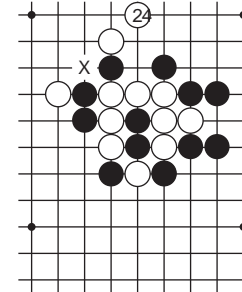
【第8図】

第9図

第2図では白の三を左下に止めているが右上に止める変化を考える。13の反対止めで、「斉藤本」の24図である。解説は「15をAなら白B 21で15点が三三禁になる」

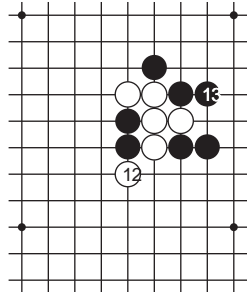


【第10図】

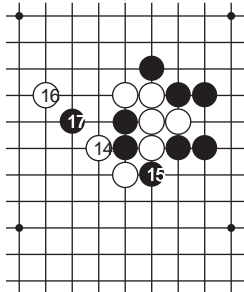


第10図
白24でX点が三三禁になる。

【13の反対止め】



【途中図】

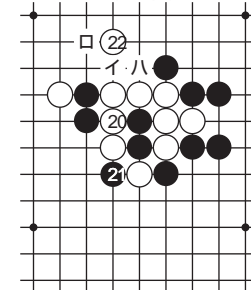


6

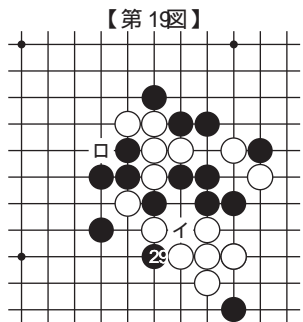
第11図

第9図の20は四四のミセ手なので下に止める。そのときイロとか22と打ったのでは白勝ちが消滅する。第10図のように24で禁手にしなければならない。

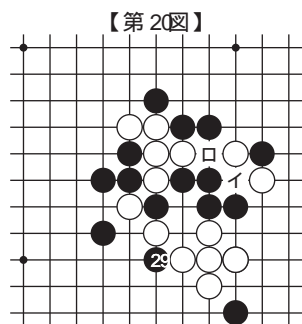
【第11図】



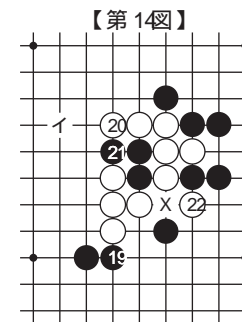
7



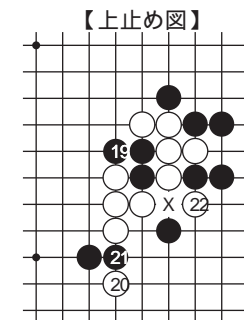
第19図
黒からイ口の四三がある。

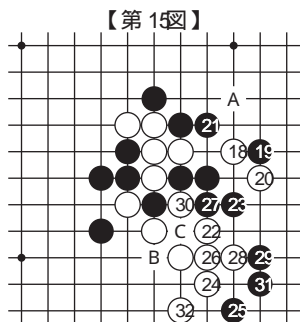


第20図
イは四三ではない。
それは口の点が四四で
打てないからである。
後の方の31図とくらべ
てほしい。

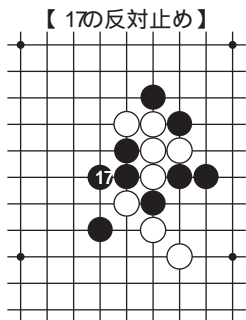


第14図
下止めの例である。
22でX点が三三禁にな
る。22でイと打ったり
すると逆転する。

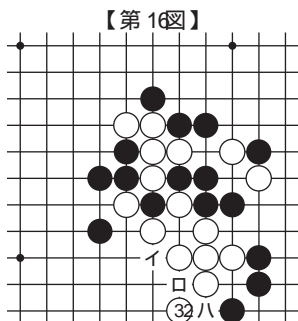




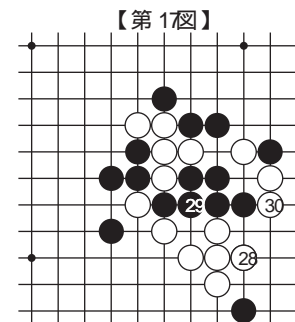
第15図
第2図にもどって黒の17で反対側の左上に止めてみよう。「斎藤本」の24図である。解説は「黒21をAなら白28黒B白Cで追い勝ちになる。白32以下四追い勝ちになる」



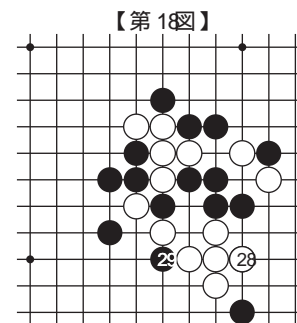
【17の反対止め】



第16図
白32までの図でイロハの四追い勝ち。

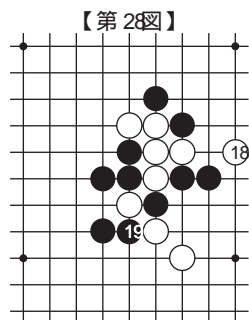
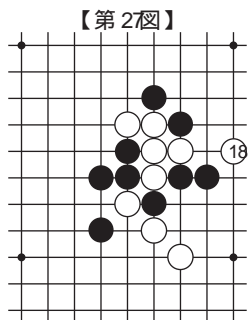


第17図
第15図を検討してみよう。黒が29で先に四を打つと、白に三三を打つ筋があらたにできてしまう。



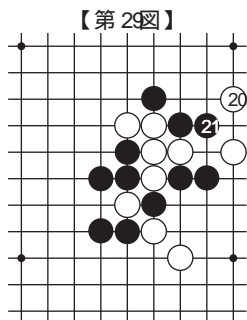
第18図
29を左止めにしたとき、同じ手順で白勝ちかと思うと逆転する。

第27図
15図の18は三三禁を
ねらっている。

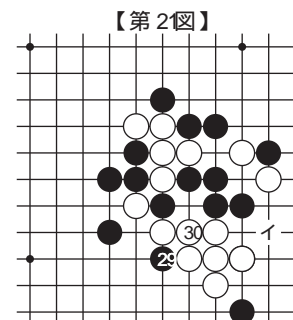


第28図
2重禁とちがって単
発の三三禁をねらう手
は、三をのびること
によって防げることが多
い。19と引いてみよう。

第29図
黒に21と打たせると
今度は四三三の禁手
になってしまう。15図の
19はやむをえない。

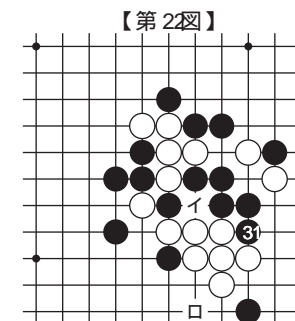


16



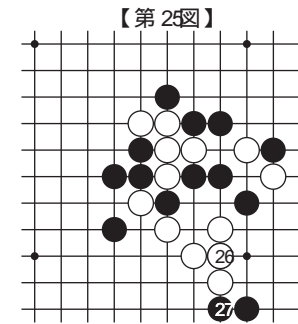
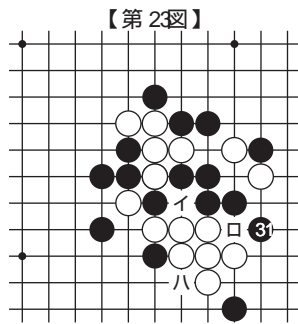
第2図
白から30と防いだ手
がイの四三をミせてい
る。

第2図
黒が31と止めてもイ
口で白勝ち。

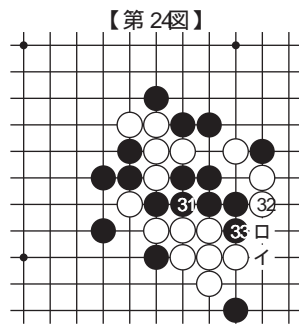


13

第 23 図
31でもイロハ。

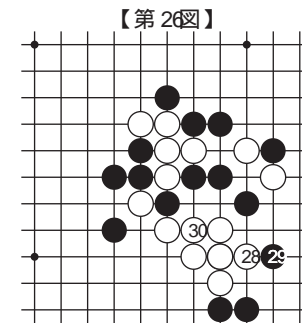


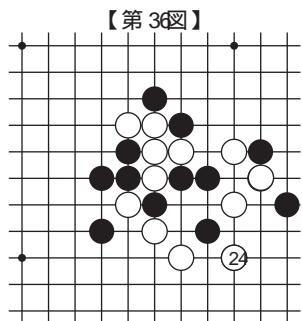
第 25 図
27と下に止めたらどうだろう？



第 24 図
黒がいったん四を引いて 33 と止めてもイロの四三になり白の勝ちである。

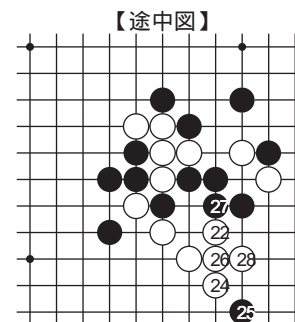
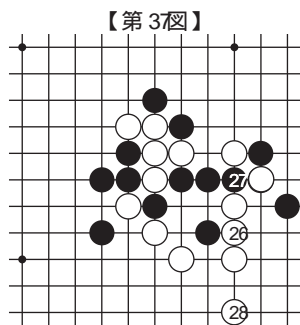
第 26 図
28, 30 と打てば簡単な四追い勝ちである。21 図とほぼ同じ手順である。



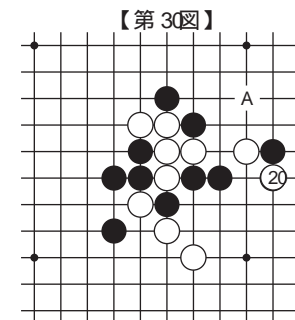
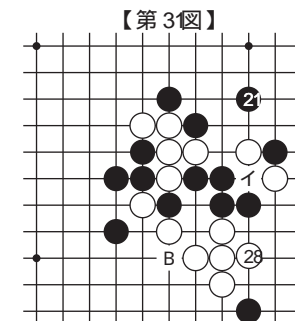


第36図
34図の24で打った図である。これは4カ所の四四をフクんでいる。

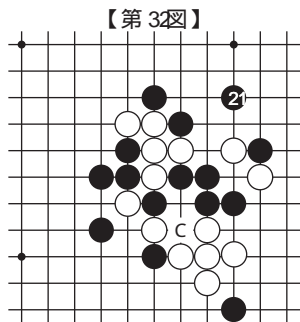
第37図
白が続けて打つとすると、これで四四になる。



第38図
15図の「黒2がAなら白2黒B白Cで追い勝ちになる」という解説について。この文章は途中が省略されているので判りにくいかもしれないが、18図と同じようにすすんで28に対しBと左に止めるという意味である。20図との違いは、21の石がひとつずれているのでイが四三になる。20図とくらべてほしい。

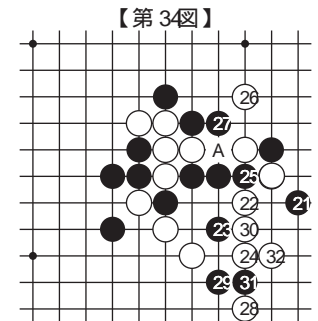


第39図
2をAと一間にはなして打つことも考えられる。これは次図になる。

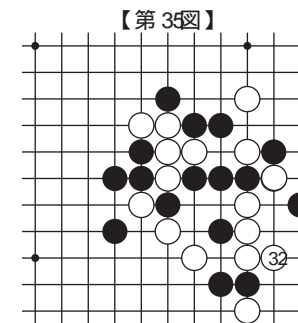
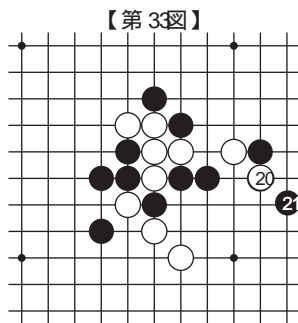


第32図
31図でとりあげた解説で「...白Cで追い勝ちになる」と書かれているCはここである。この図は21図とは、21の石の位置がずれているだけで、他は同じ図である。したがって以下の勝ち方は同じである。

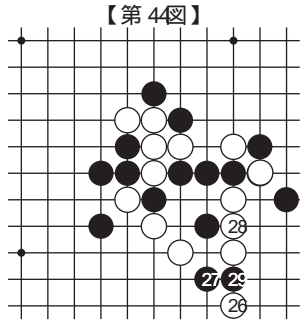
第34図
「斉藤本」の246図である。この図についての解説は無く、14をAに打つ変化のみが記されている。



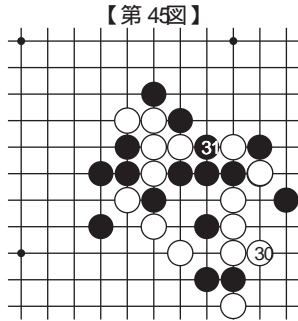
第33図
四三のミセ手を右下に防ぐことも考えられる。それが次図である。



第35図
この32で四四禁を打たせることができる。黒は四四の筋があるので逃れられない。この図ができる課程は、次図から43図までで検討しよう。

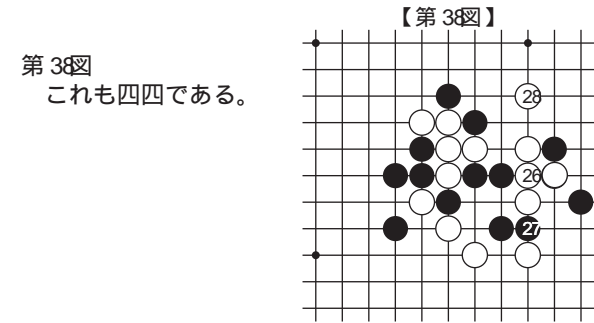


第44図
42図の26 27の交換をしないで、同じように打つと大変なことになっている。

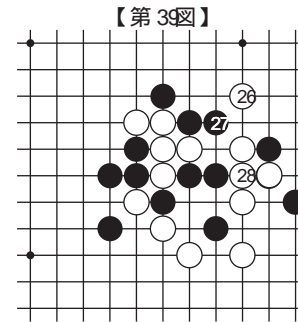


第45図
30と禁手を打たせようとしても、31が四三というより止まっていない棒の四になっている。縦の黒の三が長連筋になっているので、禁手が解消してしまった。35図とくらべてほしい。

結論として、第2図の11,13,17が最善手である。
(第3部おわり)

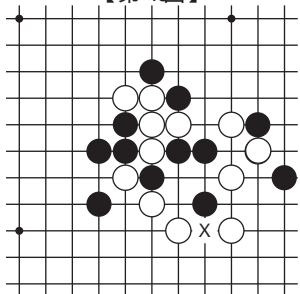


第38図
これも四四である。



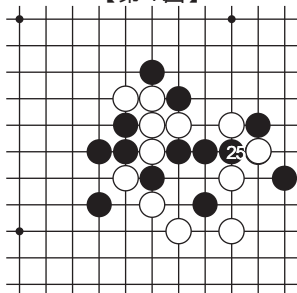
第39図
これも四四である。両頭の四四といわれている。下の方にも同じ手順でつくることができる。

【第40図】



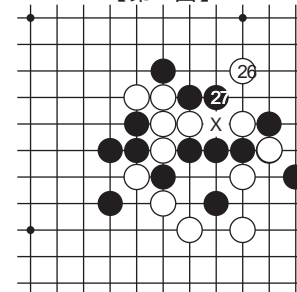
第40図
さらにX点の三三を
ねらう手ものこっている。

【第41図】



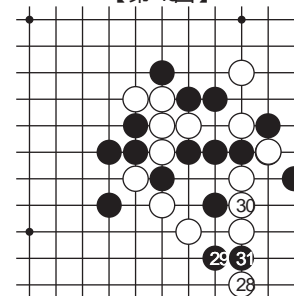
第41図
ここで黒は25と防い
でみる。これは三では
ないが白の打ち方によ
っては逆転する。

【第42図】



第42図
黒に27と打たせると
X点が四三三から四四
三に変わる。この交換
には意味がある。

【第43図】



第43図
28 30と打つと、黒の
方に四四禁のところが
3カ所もできる。これ
で38図ができあがる。